

サポーターの皆さまのリアルな声

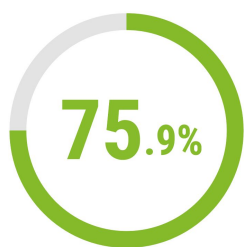
イノベーション東北 サポーター 活動調査レポート

※ 2017年2月 イノベーション東北調べ（回答者数 103名）

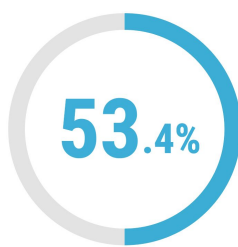
イノベーション東北は、東日本大震災を機に新しいプロジェクトへ挑戦する人と、そのプロジェクトに参加したい人とをつなぐプラットフォームとして、2013年にGoogleを中心として活動を開始。被災地域を中心に、480を超えるプロジェクトに対して2,400以上のサポーターによる支援が行われました。ここでは、イノベーション東北を通じて、地域の人と一緒に取り組んできたサポーターの皆さまに、なぜプロジェクトに参加したのか、参加してみてどうだったのか、リアルな声を、データとともに紹介します。

Q. あなたがプロジェクトへ参加して得られたものは？（複数回答）

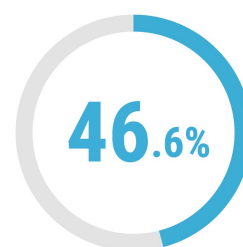
復興のために何か役立ちたい、地域や地元のために何かしたいというきっかけから地域に関わることで、新しい仲間や知り合いとの「出会い」が生まれたと、多くの方が回答しています。



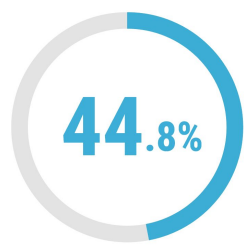
新しい仲間や知り合いに出会うことができた



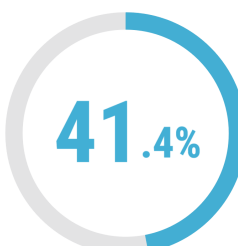
地域や地域の人とつながるきっかけになった



復興や地域活性化に関わられた



自分のスキルを生かすことができ、自信につながった



普段の仕事や生活に活かせる学びが得られた

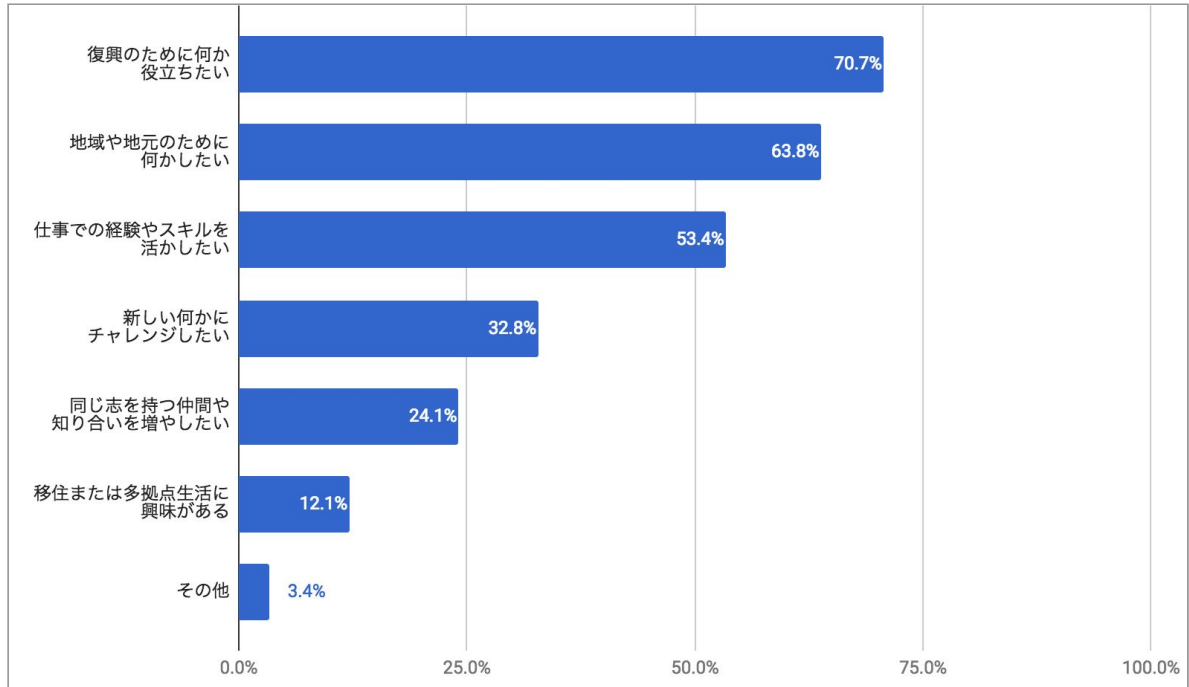
フリー回答より

- 未知の地域へ訪れるきっかけ、新しい仲間の獲得、プロジェクト完了後に自身の活動事例として使える、などのメリットができました。
- 現地を訪れたときのご縁でまだ自主的な支援やつながりが続いています、そしてこれからも続きます。
- 貴重な機会を作っていただいたことで、新しい友だちに出会えました。

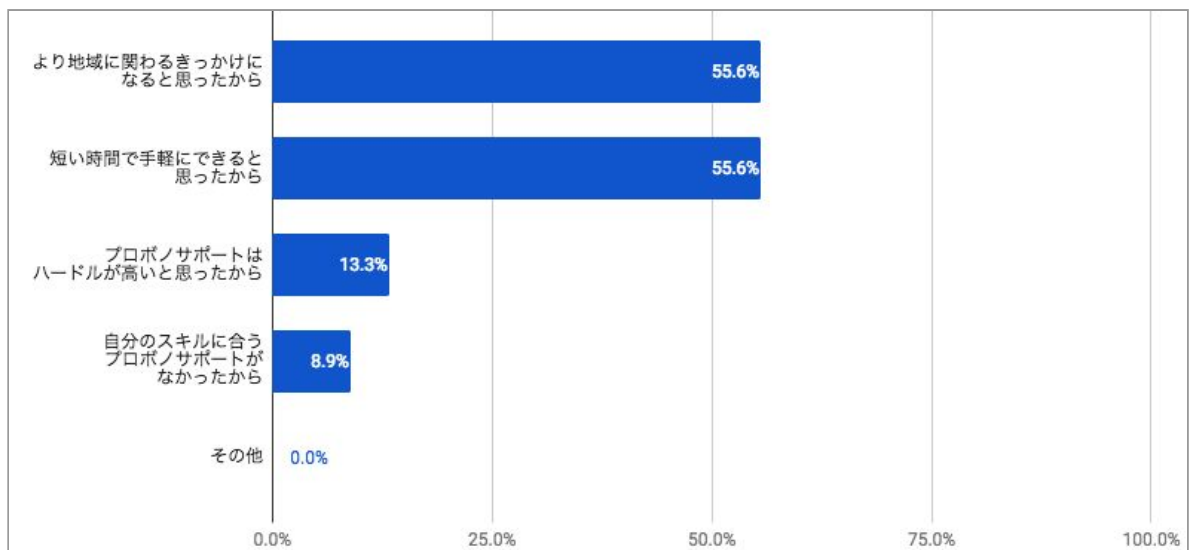
Q. あなたが地域プロジェクトへ参加した理由は？（複数回答）

関わり方の程度の差はあれ、ワントタイム、プロボノいずれも「（復興や地域のために）何か役に立ちたい、関わりたい」というサポーターの想いが伝わってきます。また、プロボノは「移住・多拠点生活」への関心が低く、あくまでも、ライフスタイルを変えることなく復興や地域のプロジェクトに関わりたい、というインターネットの活用を前提としたイノベーション東北だからこそその特徴がみえて取れます。

プロボノサポートの場合



ワントタイムサポートの場合

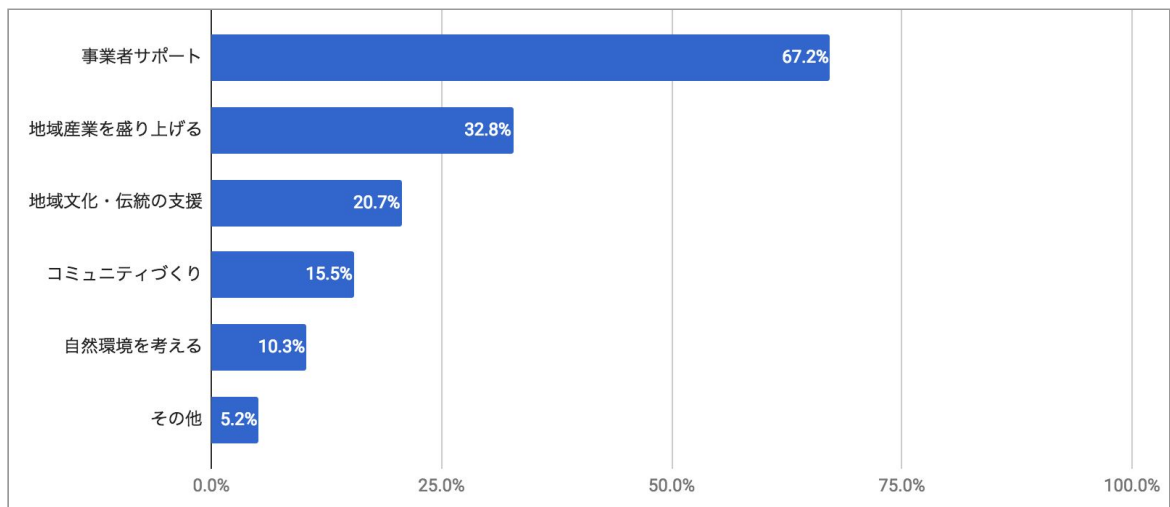


Q. あなたが参加したプロジェクトとサポート内容は？

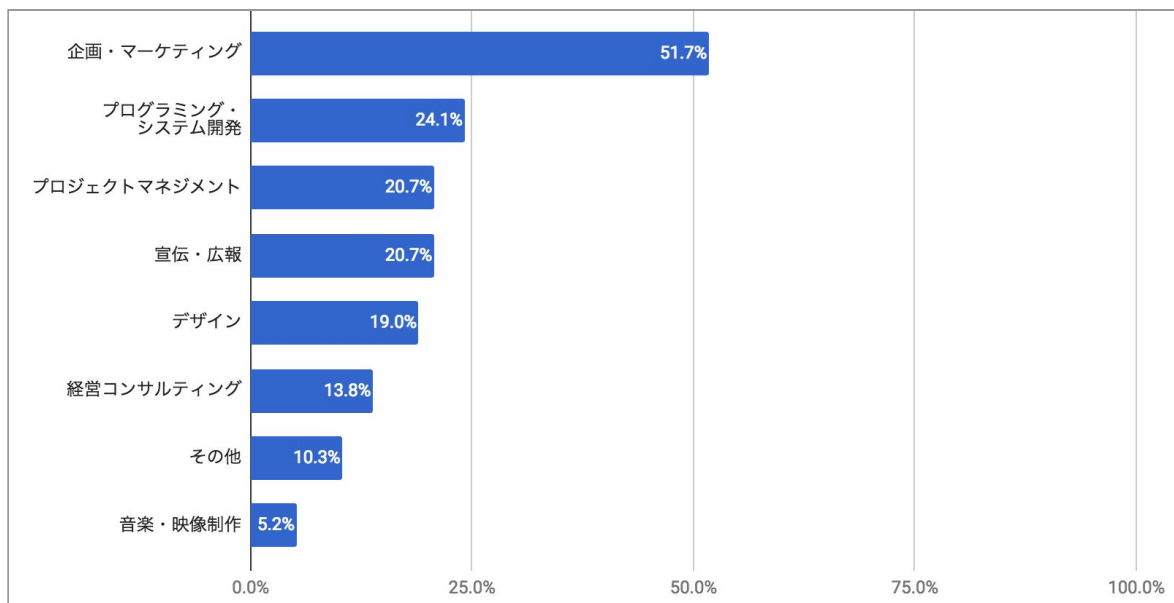
■プロボノサポート

自身のスキルを活かして参加するプロボノの皆さまは、東日本大震災によって深刻な被害を受けた地域事業者および地域産業の復興のためのサポートを中心に活動を行いました。サポート内容のカテゴリを見ると、事業者との密なやり取りが求められる中長期的な取り組みのサポートが多い結果となっています。割合としては企画・マーケティングが多いですが、具体的なサポート内容にある通り、サイト制作やアプリ開発から、海外展開や経営課題解決のためのサポートまで多様性のある内容となっています。

参加したプロジェクト（複数回答）



サポート内容のカテゴリ（複数回答）



具体的なサポート内容（フリー回答より）

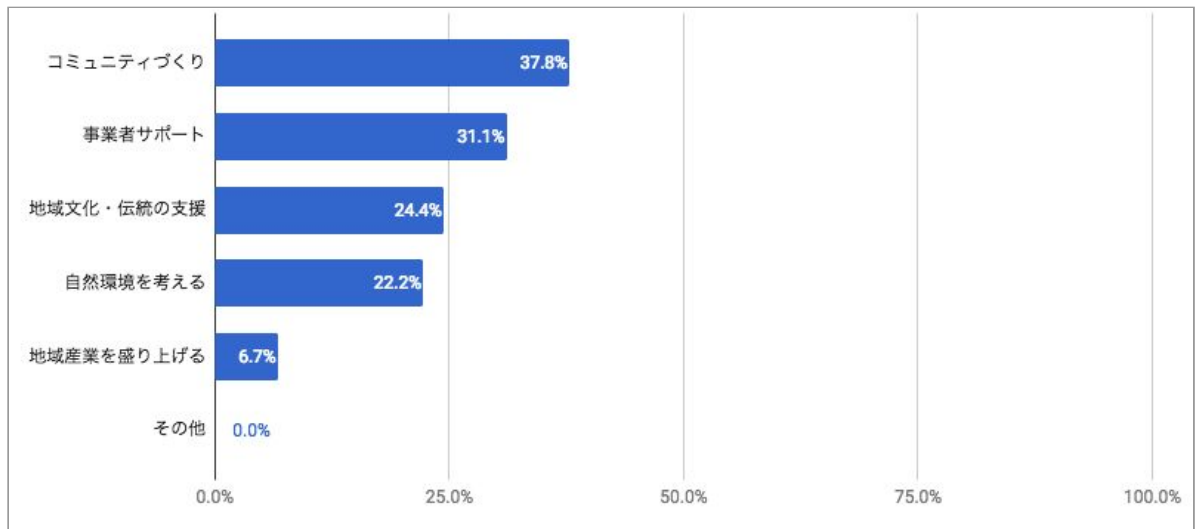
- ショッピングサイト作成及び運営環境設定
- 事業者からのメッセージを纏めてホームページ作成
- ネット販路拡大のためのネット広告のサポート

- プロモーション用アプリケーションの開発
- スマホアプリ、Web サイトの制作のマネジメント
- 担当したゲーム制作部分のプログラミングとマネジメント
- 継続的な情報発信（ホームページとSNSの更新）作業
- 経営診断、経営計画策定
- 製品の海外展開のサポート
- 補助金や助成金などの情報提供
- 商標出願のサポート

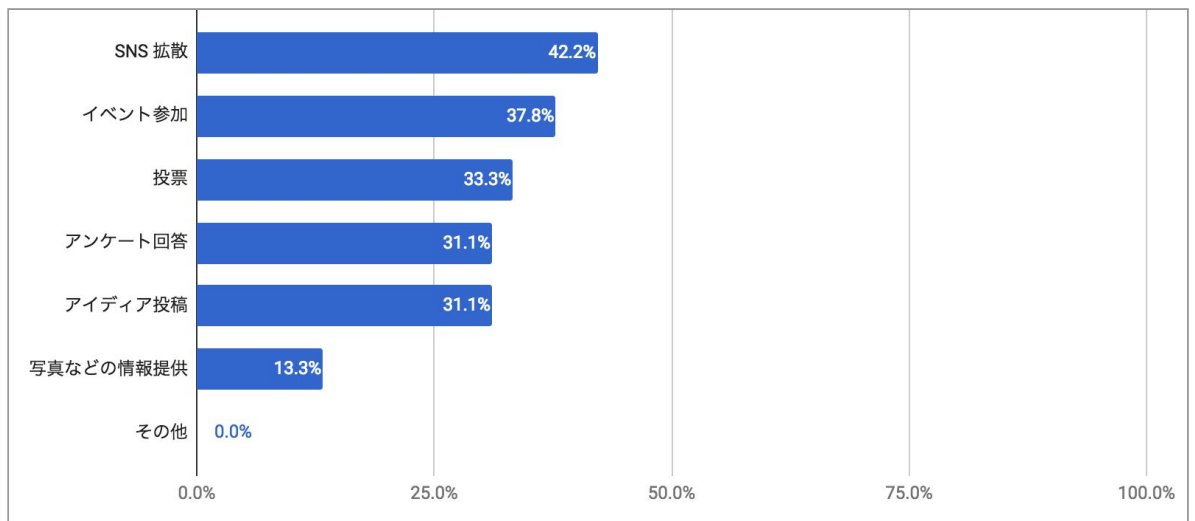
■ワンタイムサポート

ウェブアンケート回答や投票、SNSでの地域情報拡散といったワンタイムサポートでは、「コミュニティづくり」「地域文化・伝統支援」といったプロジェクトが、多くのサポーターにとって関わりやすいジャンルでした。

参加したプロジェクト（複数回答）

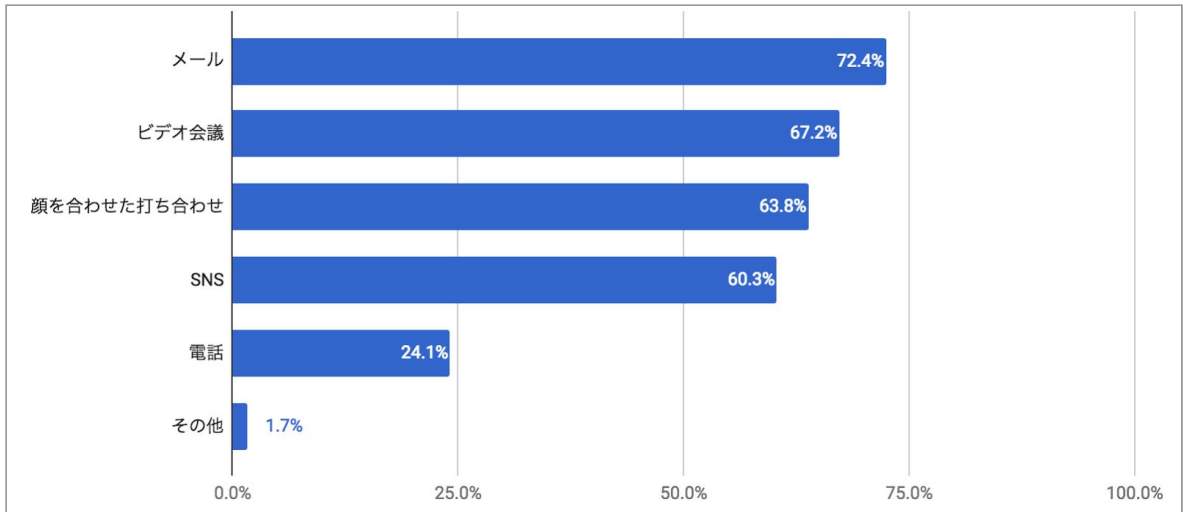


サポート内容データ（複数回答）



Q. 地域側とのコミュニケーション手段はどのようにしましたか？

各種コミュニケーションツールを活用されていることが分かりますが、メールや SNS を使った文字でのやり取りだけではなく、ビデオ会議や、現地に行き、プロジェクトオーナーの顔を見て「話す」ということを多くのサポーターの皆さまが大切にされていたことが見てとれます。



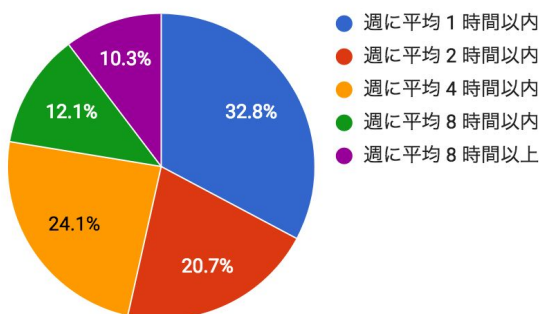
フリー回答より

- 遠隔であろうがなかろうが、全てはコミュニケーションである、と考えます。
- 現地に足を運んだ方が、よりコミュニケーションが深まると思います。
- 年代や地域が違う人と話すのは、いい経験になると思います。
- 相手の話にまず耳を傾けてあげてください。

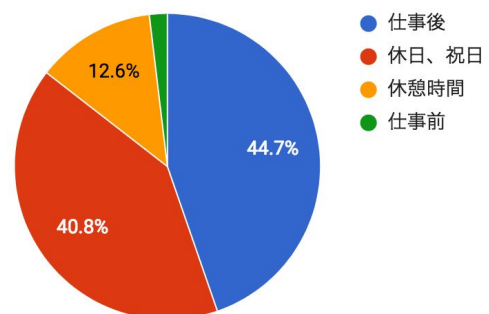
Q. 時間とお金について (※データはすべてプロボノサポーターに関するもの)

仕事後や休日といった、本業に影響がなく、ある程度まとめて時間が取れる時間帯に活動されていたサポーターが多く、プロジェクトへの参加期間は 3 ヶ月が最も多いケースです。ただ、約 4 分の 1 のサポーターは 1 年以上プロジェクトに関わっており、その内訳を見ると、多くは現地の事業者サポートプロジェクトで、経営、補助金申請、販路開拓のサポートなどでした。また、費用については、現地への交通費が主な用途でした。自ら現地に足を運んでいることから、ここでも現地の人と直接会うことを大切にしている傾向がわかります。

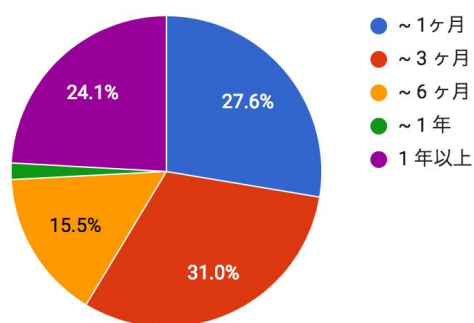
プロジェクトに費やした時間



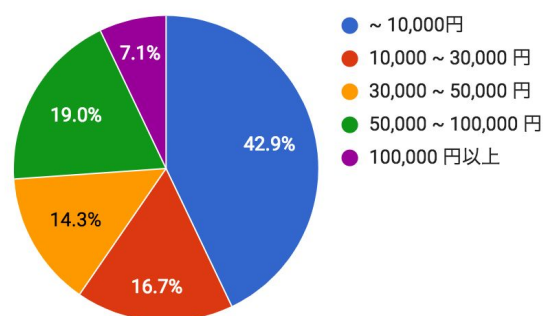
活動を行っていた時間帯



プロジェクトに関わった期間



プロジェクト参加を通してかかった費用

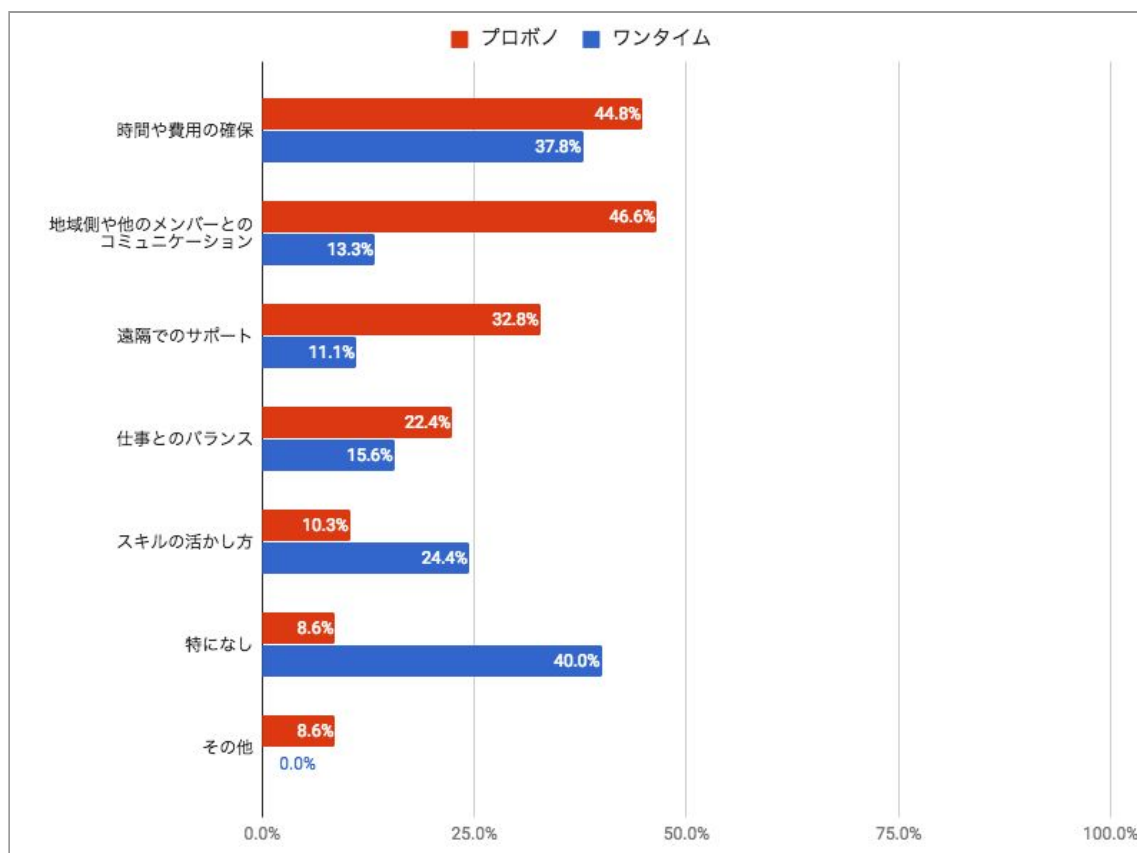


フリー回答より

- 仕事がある場合は無理なく続けられることを前提に取り組むのが良いと思います。
- 自分のペースで持続性重視で。
- 継続が必要なことに、無理をしない。

Q. あなたが地域プロジェクトを進める上で、困ったことは？（複数回答）

プロボノ、ワнтаイムサポートともに、時間や費用の確保が大きなネックになっています。プロボノは「遠隔で、プロジェクト期間が中長期的」であるため、現地とのコミュニケーション、遠隔サポート、仕事とのバランスの課題が多く見られます。ワнтаイムはそのような課題は少ないですが、基本的に「一度きりでライトなもの」であるため、スキルの活かし方に課題を感じたサポーターが多かったことがわかります。



フリー回答より

- 地域からの期待値が分からず、過大にとらえすぎていたのかもしれないと思った。東京に住んで仕事をする自分ではその期待に応えきれないのではないかと気後れしてしまっていたが、もう少し気軽に飛び込んでみても良かった。
- プロボノでの関わりは非常に難しいと感じました。難しいと感じた点は自分が無償で関わることによって、有償で地元の企業が何らかの対応をしたかも知れないと思うと積極的にかかわることが復興のための良いのか？躊躇することがありました。
- サポーター間の情報共有、成果の共有が不足していたと思います。

Q. これから地域へ関わりたいと考えている方へメッセージを

- まずはとにかく飛び込んでみる。迷ったら参加してみると良い。世界が広がる。
- 「何かをしなければならない」という意識をまずは脇に置いて、楽しいことをしようという気持ちから始めるといいと思います。
- 小さな力が集まれば大きくなるのが出来ます。ほんの少しのことで参加することが、地域の方たちにとっても嬉しいのではないのでしょうか。
- やる前は億劫になることもありますが、一歩踏み出せば物事は簡単に動き始めます。新たな仲間と一緒に頑張ってみてください。
- 地域の方と親密になるには少々気合が必要かもしれませんが、切っ掛けさえあれば直ぐに慣れるでしょう。地域復興は勿論のこと、自身の人間的成長に大きく影響を与える活動ですから勇気を振り絞ってなんでもやってみましょう。
- 少しでも興味がある、気になる地域やプロジェクトがあればまずは参加してみることでと思います。自分が想像しているより、多くの出会いと自分自身の発見があります。
- 仕事と違って失敗はないので、プラスのことだけ考えてやるのが良いと思います
- 直感でいいので、自分が前向きに挑戦できるものだけに絞って取り組むのが良い。そして仕事がある場合は無理なく続けられることを前提に取り組むのが良いと思います。
- 最初から大きなことをしようと身構えるのではなく、やれる範囲で参加するのが良いと思います。
- 誰でも必ず役に立てることが出来ることを信じて欲しいと思います。
- 地域との関わりはつまるところ、今自分の住んでいる所との関わりにつながると思う。
- プロジェクトに参加してみて、無理せず小さなことで出来ることがあるということを知った。まずはそこから始めてみることで復興や地域への目線が変わったり自分としての関わり方が少し見えたような気がします。

是非こちらをご覧ください



「[未来への学び](#)」では、イノベーション東北のプロジェクトオーナー、そしてサポーターの一部の皆さまの体験談を[地域発プロジェクトページ](#)にて公開しています。

地域を元気にするための活動を進める上で、またそのような活動に地域の外から関わるための、ヒントとなることを願っています。

